

『英語学を学ぼう』の練習問題の解答

第2章 英語学の醍醐味と研究方法

2.1. 英語学の醍醐味とは (p. 14)

練習問題 1.

解答)

a. Mary b. Mary c. John d. for someone

練習問題 2.

解答)

a. Mary か Jane 以外の女性 b. Jane c. Tom か Tom 以外の男性 d. Tom's father

練習問題 3.

解答)

- a. 巧妙にも, ビルは我々にその秘密を話した。(S adverb)
- b. ビルは我々に巧妙な方法でその秘密を話した (VP adverb) と (a) の文副詞の解釈がある。
- c. **cleverly** の前にカンマがあれば (a) の文副詞の解釈になるが, カンマがないので (b) と同様に動詞句副詞と文副詞の曖昧な解釈になる。

2.2. 英語学の研究方法とは (pp. 21-22)

練習問題 1.

解答)

(a) (b) (c) のいずれも 5 文型に分類することができない。なぜなら, 下線部が義務的要素となるため任意的要素の修飾語として解釈できない。

- a. Cows provide us with milk.
- b. Tom is in the hole.
- c. Mary put the book on the table.

練習問題 2.

解答)

move 「動く」という動詞は「動き」があるが, 「接触」の意味を持たないので move は動能構文では用いられない。動能構文の成立条件は「動き」「接触」である (p. 21 を参照)。

練習問題 3.

解答)

(a) の break の動詞は cf. のように使役主 (John) や台風などの外部要因の主語を選択する (e.g. Typhoon broke the door.)。また, 自然にドアが壊れることもある (自力性)。したがって, 目的語を主語にした自動詞構文 (= 起動構文) が可能となる。一方, (b) の cut の動詞は「切る」動作主 (= 使役主) が必ず要るので cf. のような使役他動詞構文でしか用いられない。また, 風のような外部要因の主語も取れない (e.g. *The strong wind cut the

string.)。

第3章 英語史

3.1. 英語はどこから来たのか (pp. 26-27)

練習問題 1.

解答)

インド・ヨーロッパ祖語が存在するのは系列言語間の言語的共通性があるということに基づく。その当時の自然や文化にも依存するので、もし「雪」という単語が系列言語全体に含まれているならインド・ヨーロッパ祖語も「雪」が降る場所だと特定できる。また、「王」という言葉が含まれているなら、王族を形成していた地域であることが推定される。このようにして、現在のポーランド付近がインド・ヨーロッパ祖語の発祥地であることが特定できる。

練習問題 2.

解答)

英語：Yes, they were students.

ドイツ語：Ja, sie waren Studenten.

オランダ語：Ja, ze waren studenten.

スウェーデン語：Ja, de var studenter.

デンマーク語：Ja, de var studerende.

ノルウェー語：Ja, de var studenter.

アイスランド語：Já, þeir voru nemendum. (ゲルマン語族の中でもより類似性のある言語の地理的關係や歴史的關係を考慮に入れると新たな発見に繋がる。ほかの文についても調べて比較してみよう。)

練習問題 3.

解答)

Chichester (West Sussex), Colchester (Essex), Doncaster (South Yorkshire), Lancaster (Lancashire), Leicester (Leicestershire), Manchester (Greater Manchester), Silchester (Hampshire)など。

3.2. デーン人とノルマン人の攻撃 (pp. 30-31)

練習問題 1.

解答)

アングロ・サクソン (非征服者) に由来するのは人間が食用にする動物の単語 (ox (牛), sheep (羊), swine (豚)) である。一方、ノルマン人 (征服者) に由来するのはそれらが調理された単語 (beef (牛肉), mutton (羊肉), pork (豚肉)) となる。

練習問題 2.

解答)

- a. five /fi:v/ b. three /θre:/ c. pool /po:l/ d. house /hu:s/
e. name /na:m/→/ne:m/ (中英語の前期から後期にかけて発音が変化した)

練習問題 3.

解答)

- a. minister (召使い) b. write (文字を刻みつける)
c. starve (死ぬ cf. ドイツ語の sterben) d. cunning (賢明な)

練習問題 4.

解答)

- a. ケム川に架かる (over the Cam) 橋 (bridge)
b. エディンバラの要塞 (fortification at Eidyndyn)
c. 草の多い (grassy) 湖 (mere)
d. ham には町や村の意味がある (cf. Buckingham, Nottingham)。Laven は Lāfan という人の名前。この町は crooked house (斜めに傾いた家) が多いので知られている。
e. the city of London=Londinium (ラテン語) (船 (boat) でテムズ川を横切るのに最短の場所として架橋された場所)
f. 牛 (ox) が歩いて渡る浅瀬 (ford)
g. スコット族 (Scot) の国 (land) (スコット族は元来、北アイルランドから来たケルト人)
h. エーボン (Avon) 川の strat (Roman road) ford: ford by which a Roman road crossed a river.
i. よそ者 (アングロ・サクソン人が言語や文化の異なるケルト人をけなして外国人 (foreigner: OE wealh) と呼んだことに由来)
j. don は hill の意味。Wimble は Wynnmann の名前から由来。ノルマン人が nn を l に、m と l の間に b を挿入させた。ウインブルドンは全英テニス選手権大会の開催場所として有名。

第4章 形態論

4.1. ゴジラはゴリラと鯨の混成語 (p. 35)

練習問題 1.

解答)

- a. 混成語 b. 混成語 c. 省略語 d. 混成語 e. 混成語

混成語は省略語 (ポケ(ット)・モン(スター)) と異なり、原語が存在しない (*柿・ピーナツ, *結婚・活動, *ラッキー・ハッピー, *グッスリ・スイミン) ことが決め手となる。また、混成語の 2 つの原語は形態的に意味的に類似したものが多い。例えば、ラッキーもハッピーも共に形容詞で意味的にも「幸運な」や「幸福な」と類似した意味をもつ。

練習問題 2.

解答) a.

前部省略：(運転)+免許書，(サラン)+ラップ，(ちりめん)+じゃこ，など。

後部省略：高速+(道路)，カセット+(テープ)，チョコ(レート)，など。

中部省略：警(察)官，むず(かし)い，おも(し)ろい，めんど(くさ)い，など

前部後部省略：(一)般+教(養)，(甲)南+女(子)大学，(ほか)ほか+弁(当)，など

後部後部省略：学(生)+食(堂)，日(本)+銀(行)，着(信)+メロ(ディー)，など

この5つの型の中では，後部後部省略が省略語として一番多く見られる。

解答) b.

(内閣)+総理(大臣)，サ(ウ)ン(ド)+トラ(ック)，び(っ)く(り)+ドン(キー)，日(本)+教(職員)組(合)，など

解答) c.

CA (Cabin Attendant)，DVD (Digital Versatile Disc)，TOEFL (Test of English as a Foreign Language)，TKG (たまごかけご飯)，YDK (やればできる子)，など。

4.2. ライスカレーとカレーライスの違い (pp. 39-40)

練習問題 1.

解答)

オムライスはおム(レツ)+ライスの和製語であるが，オムレツ風にした焼き飯のこと。チキンライスもバターライスもチキンやバターを使用し，材料や炒め方が異なるが焼き飯風にしたところは同じなので，焼き飯風のライス的一种と言える。同様に，チキンカレー，ビーフカレー，ポークカレーは鶏肉，牛肉，豚肉を使用している点が異なるが，カレーの一種と言える。

練習問題 2.

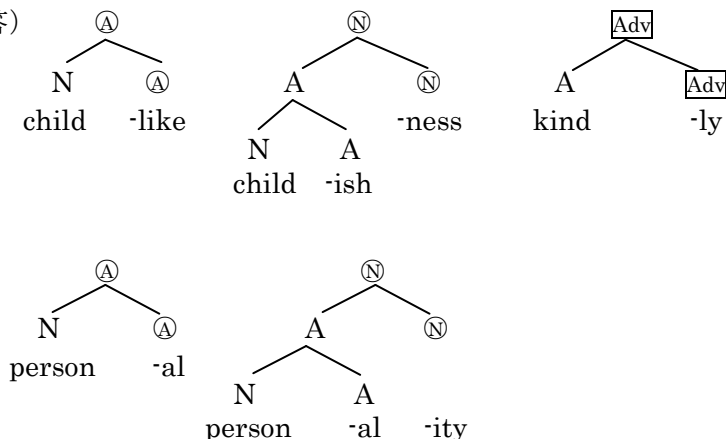
解答)

「アンパンマン」は，やなせたかし原作の絵本「アンパンマンシリーズ」，日本テレビ系列で放送されているアニメ作品「それいけ！アンパンマン」に登場するキャラクターおよび主人公。顔がアンパンで出来ていて，困った人や空腹の人に，ちぎって顔のアンパンを食べさせる正義の味方。「アンパンマン」は「パン工場で，ジャムおじさんの助手をしている女性，バタコさんが作った主人公ですが，右側主要部の規則から「スーパーマン」や「筋肉マン」と同様にマンの一種になる。

「肉まん」は「肉まんじゅう」の省略語で，ひき肉を包んで蒸した饅頭のこと。右側主要部の規則により，「豚まん」や「栗まん」と同様にまんじゅうの一種になる。

練習問題 3.

解答)



Ⓐ, Ⓝ, Adv は右側主要部の規則を反映し, 全体の派生語の品詞が一番右側の接辞の品詞によって決定されることを示す。

4.3. 京都女子大学は京都・女子大学か京都女子・大学のどちら (p. 43)

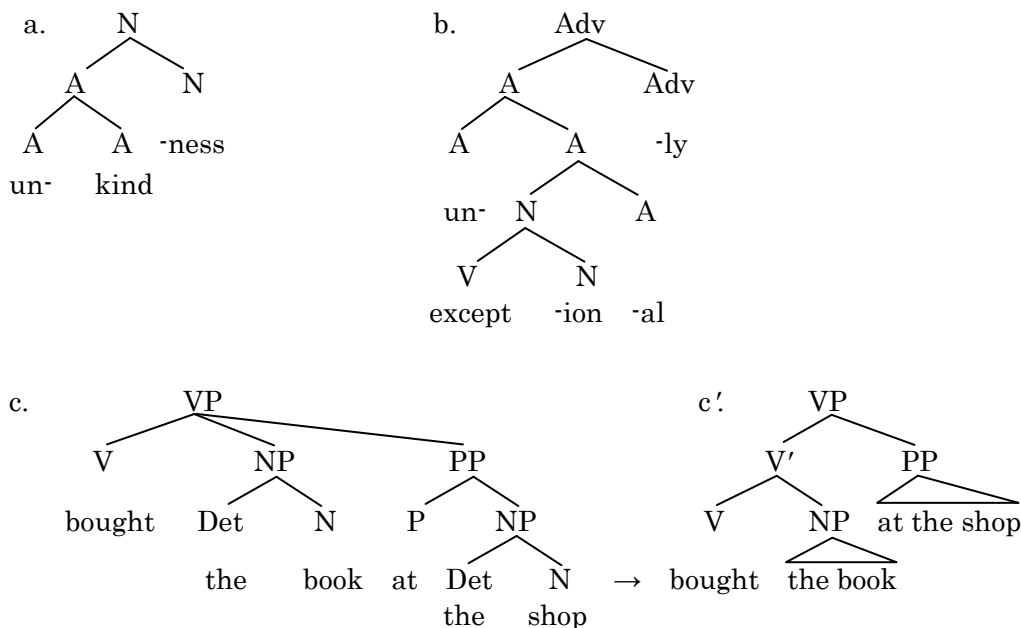
練習問題 1.

解答)

(4a)構造になる。なぜなら, (4b)は京都女子という言葉がなく, 意味を考えると京都の女性だけが通う大学になるので不自然である。高校生や大学生を統合して京女生というが, その場合, 京女は京都女子高等学校や京都女子大学に通う学生に限定される。ポーズを置く場所を考慮すると, 京都・女子大学であり, 京都女子・大学ではないことに気づく。

練習問題 2.

解答)



(c)の樹形図を二項枝分かれにするには右図(c')のように X-bar 式型が必要。

練習問題 3.

解答)

*in (1) + friendly (2) (cf. un (2)+friendly (2))

friendly のレベル 2 の接辞化が形成されたあとにレベル 1 の in- が付加するので順序付け違反となる。

4.4. 派生と屈折の違い (pp. 46-47)

練習問題 1.

解答)

- a. -ed は heat (熱) の名詞に付加して形容詞に変える派生接辞, -ly は形容詞の heated (熱っぽい) に付加して副詞の heatedly (熱っぽく, 興奮して) に変える派生接辞。
- b. un- は形容詞の基体に付加する派生接辞, -ful は名詞に付加して形容詞に変える派生接辞。したがって, harm (害) の名詞に -ful が付加し, harmful (有害な) を形成後に un- が unharmful (無害の) に付加すると捉える。
- c. -ment は agree (同意する, 一致する, 取り決める) の動詞に付加して名詞に変える派生接辞, 一方 -s は名詞 agreement (契約書) に付加し, 複数の契約書を示す屈折接辞。
- d. -ing は動詞の interest (興味を起こさせる) の基体に付加して形容詞 interesting (興味深い) に変える派生接辞。-ly は形容詞に付加して副詞の interestingly (面白く) に変える派生接辞。

派生接辞は(b)の unharmful の un- の接頭辞を除くと品詞変換を引き起こす接尾辞である。一方, 屈折接辞は文法的な意味を付加するが品詞変換を引き起こさない接尾辞である。派生接辞と屈折接辞の見分け方は, まず基本的に品詞変換を引き起こすのが派生接尾辞で, 屈折接尾辞は引き起こさない。意味として派生接辞は接尾辞・接頭辞とも基体の意味変化を生じさせるのに対して, 屈折接辞は基体の意味を変化させないで文法的な意味が基体に付加されると考える。

練習問題 2.

解答)

- a. 「彼はボスと新しい計画について白熱した議論を交わした」の意味で, heated は heat (熱・激しさ) の名詞に派生接辞の -ed が付加して形容詞に品詞が変化している派生語。
- b. 「彼はその部屋を快適に暖めた」の意味で, heated は heat (熱する, 暖める) の動詞に屈折接辞の -ed が付加して過去形の意味となる。しかし, 品詞は動詞のままの屈折語。このように, heated には派生語と屈折語を生成させる派生と屈折の, 両方の働きがある。

練習問題 3.

解答)

句排除の制約とは派生語や複合語の中に, 句や文の機能範疇の要素が取り込めないという制約である。したがって, 派生語の a. recognizable の中に 3 人称単数の -s が入ると派生が阻止される。同様に, 複合語の中に比較級の -er や複数形の -s や -es が入ると機能範疇

の要素（下線部）が取り込まれ、b. *longer-ness, c. *babies-like, d. *duties-free の派生が阻止される。これらの機能要素は屈折接辞なので派生が終了した時点で本文の(5a)の kingdoms や bookcases のように複数形の屈折要素が付加できる。

第5章 言語習得

5.1. 母語獲得における母語知識とは何か (p. 51)

練習問題 1.

解答)

only は右側要素を修飾するが、動詞句の中に現れる名詞句の強勢によりその箇所の意味が強調され only のスコープに入る。

- a. ジョンはメアリーだけにその花をあげた。(メアリーが強調される解釈)
- b. ジョンはその花だけをメアリーにあげた。(その花が強調される解釈)
- c. 彼はメアリーにその花をあげただけだ。(あげたことが強調される解釈)
- d. ジョンだけがその花をメアリーにあげた。(ジョンが強調される解釈)

練習問題 2.

解答)

(d)の「研究する」を除いて(a)～(c)の「逮捕する」「帰国する」「到着する」の二字漢語動名詞+「する」が「を」格を取らないのは、これらの動詞が非対格自動詞に属する理由による。動詞の下記の項構造のうち、(1)(3)に見られる Agent (動作主)の外項(=主語のこと)のみが対格の「を」格を与えることができるという Burzio (1986)の一般化により説明できる。

(1) 他動詞 : (Agent <Theme>)

(2) 非能格自動詞 : (Agent < >)

(3) 非対格自動詞 : (<Theme>) 影山 (1993: 47)

「逮捕する」の自動詞も他動詞的に使えば、外項が生じて、「?警察官はその犯人の逮捕をした」と言えるが、「帰国する」「到着する」と同様に、「逮捕する」が瞬時的な意味をもつので不自然となる。ただし、「する」というよりも「試みる」の本動詞は可能(「警察官はその犯人の逮捕を試みた」)。主語の意図性があるかないかが外項条件に加えて必要となる。また、「回転する」は(4)(5)のように非能格自動詞と非対格自動詞の両方の使い方があるが、ここでも意図性が「を」を取るかどうかを決定している。

(4) スケート選手が回転(を)する。(非能格自動詞)

(5) モーターが回転(*を)する。(非対格自動詞)

5.2. 幼児の範疇理解と構造の関係 (pp. 54-55)

練習問題 1.

解答)

(a)を解釈すると「ジョンは付けをためた」で、(b)を解釈すると「そのネコは木に駆け上がった」となる。(a)の **ran up** は「請求書や借金などをどんどん増やした」の意味をもつことから句動詞となり **up** は副詞と解釈される。(b)の **ran up** は「階段や木などを駆け上がった」の意味で **ran down** は同じく「駆け下りた」の意味がある。この場合の **up** や **down** は前置詞で、**up/down a tree** で前置詞句を形成する。したがって、**a tree** を代名詞の **it** にすると **up/down it** となり、一方 **up the bill** は **the bill** を **it** にしても ***up it** にならない「代用テスト」の異なる結果が得られる。**John ran it up.** と **The cat ran up/down it.** の違いを確認しよう (cf. ***John ran up it.** 「ジョンは付けをためた」 ***The cat ran it up/down.** 「そのネコは木に駆け上がった／駆け下りた」)。

練習問題 2.

解答)

移動テスト (movement test)

- a. It was a red handkerchief that I bought yesterday.
- b. ***It was a red handkerchief yesterday that I bought.**

代用テスト (proform test)

- a. I bought a red handkerchief yesterday, but I lost it today.
- b. ***I bought a red handkerchief yesterday, but I lost it today.**

省略解答テスト (elliptical answer test)

- a. What did you buy yesterday? A red handkerchief.
- b. What did you buy yesterday? ***A red handkerchief yesterday.**

等位テスト (coordination test)

- a. I bought a red handkerchief and a white scarf.
- b. ***I bought a red handkerchief yesterday and a white scarf.**

練習問題 3.

解答)

この文の曖昧な解釈として、「メアリーはその人に自分はジョークが好きだということをお話した」の意味と「メアリーは自分が好きなその人にジョークをお話した」の意味がある。前者の解釈は **the man** と **that she liked the joke** の二重目的語構文として捉え、後者の解釈は関係節を含んだ **the man that she liked** と **the joke** の二重目的語構文として捉えている。

5.3. 人間の頭の中に普遍文法がある (pp. 59-60)

練習問題 1. (解答は Wikipedia (ウィキペディア) より)

解答)

SOV 型：日本語，朝鮮語，トルコ語，ヒンディー語，琉球語，アイヌ語，アルタイ諸語，インド・イラン語派，ドラヴィダ語族，チベット・ビルマ語派，ニヴフ語，ウィルタ語，ブルーシャスキー語，パーリ語，朝鮮語，アムハラ語，エスキモー語，チュクチ語，テュルク諸語，アイマラ語，ケチュア語，ナバホ語，ホピ語，バスク語，シュメール語，アッカド語，ヒッタイト語，エラム語など。(世界の言語の約 50%)

追加文型)

SVO 型：英語，フランス語，中国語 (広東語などの諸方言や漢文を含む)，スペイン語，イタリア語，ポルトガル語，カタルーニャ語，ルーマニア語，ブルガリア語，現代ギリシア語，デンマーク語，スウェーデン語，ノルウェー語，タイ語，ラーオ語 (ラオス語)，ベトナム語，ジャワ語，インドネシア語，マレー語 (マレーシア語)，クメール語 (カンボジア語)，スワヒリ語，現代アラビア語諸方言，ハウサ語，ヨルバ語，グアラニー語，ナワトル語など。(世界の言語の約 40%)

VSO 型：古典アラビア語，ヘブライ語，ウェールズ語，アラム語，フェニキア語，古代エジプト語，ゲエズ語，ゲール語，古典マヤ語，タガログ語，セブアノ語，イロカノ語，マオリ語など。(世界の言語の約 10%)

VOS 型：フィジー語，ツォツィル語など。

OVS 型：ヒシカリヤナ語など。

OSV 型：シャバンテ語 (英語版) など。

練習問題 2.

解答)

- a. the book は put の補部 (cf. the book は NP で主要部は book, the は付加詞)。the desk は on の補部 (cf. on the desk は PP で主要部は on)。ちなみに，on the desk は put の補部にもなる。
- b. of a dog は afraid の補部 (cf. of a dog は PP で主要部は of となり，a dog は of の補部)。
- c. a computer は bought の補部 (cf. a computer は NP で主要部は computer, a は付加詞)。by cash と last September は bought の付加詞 (cf. by cash は PP で主要部は by となり，cash は by の補部)。ここでは，主要部の決定は，XP 句の X であることが重要。

練習問題 3.

解答)

- (1) a. テレビがこの部屋に置かれる。(cf. この部屋にテレビがある)
- b. この部屋で会議がある。
- c. トムは机の上に飛び乗った。トムは机の上でジャンプした。(曖昧性がある)
- d. ジョンはメアリーに本をあげた。
- e. メアリーはジョンのためにケーキを焼いた。

- (2) a. 補部
 b. 付加詞
 c. 「トムは机の上に飛び乗った」補部, 「トムは机の上でジャンプした」付加詞。
 d. 補部
 e. 付加詞

解説：主語名詞が(a)の場合はどちらの文も「テレビ」が来ていて、「モノ名詞」なので前置詞句の意味が「この部屋に」となり、(b)の場合は「会議」のような「デキゴト名詞」が来ているので「この部屋で」となる。要するに、「に」はモノが置かれる場所や存在する場所を示し、「で」はデキゴトや行為が行われる場所を示す。(c)は on が「に」と「で」の両方の解釈があり、動詞句表現が曖昧である。「に」の場合は「飛び乗る」行為が「完了」し、ナル型動詞の意味を jump がもつ。一方、「で」の場合は「ジャンプする」行為は繰り返すことが可能でスル型動詞の意味を jump がもつ(第7章の意味論7.6節を参照)。On the desk, Tom jumped. とすると、曖昧性は消えて「机の上で、トムはジャンプした」のスル型動詞の意味しか出て来ない。二重目的語構文を第3文型に変える場合に to タイプと for タイプがあり、(d)は *John gave a book. となり非文を形成し、to Mary の下線部が義務的要素となる。(e)は Mary baked a cake. が成立するので for John の下線部は任意的要素になる。一般的に、「場所を表す前置詞句」が goal (着点)の意味をもつ場合において「に」は補部を表し、「で」は付加詞を表すと言える。しかし、時を表す前置詞句の「に」は付加詞となる (e.g. Someone called me twice in the morning. 「午前中に2回電話があった」)。したがって、(a)の cf. There is a TV in this room. の場合は、場所を表す前置詞が来ているが goal ではないので補部とはならない。

5.4. 第二言語習得と動機づけ (p. 63)

練習問題 1.

解答)

JASET SLA 研究会 (編著) (2005: 79) によると、「第二言語習得に、動機づけの概念を導入し、その後、動機づけという研究領域を築いたのは、Gardner and Lambert (1959, 1972) である。彼らは、カナダにおけるアングロフォン (英語を母語とする人々) がフランス語を第二言語として習得する過程から、彼らのもつ動機づけを、目標言語を母語とする人々と仲良くなりたいと願う統合的動機づけ (integrative motivation) と、受験や就職のための手段としての道具的動機づけ (instrumental motivation) の二種類に大別した」。このように、「統合的動機づけ」はカナダのような英語とフランス語の環境がすぐに手の入る状況と、日本の環境とは同じように比較できない問題があるが、日本では近年外国からの観光客が増加し、英語を使える環境は増えている。また、インターネットを通じて直接コミュニケーションをとる機会もさまざまな手段で可能となっている。

練習問題 2.

Macmillan LanguageHouse (マクミラン ランゲージハウス) (インターネット) によると、CEFR においては、まず3つのレベルが設定されており、一番下がAレベル「基礎

段階の言語使用者」, 次が B レベル「自立した言語使用者」, 一番上が C レベル「熟達した言語使用者」となっている。各レベルはさらに 2 つに分割され, 全部で 6 つのレベル (A1 / A2 / B1 / B2 / C1 / C2) から構成されている。CEFR のもっとも大きな特徴として, 「～ができる」という「CAN-DO ディスクリプタ」によって, 各レベルが定義されていることが挙げられる。もともと, 複数の言語や文化が共存するヨーロッパにおいて, 異なる学習環境を背景とする言語能力を比較できるように開発された CEFR は, 世界中からも大きな注目を集め, 幅広く導入されている。

CEFR レベル表

熟達した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりしたほぼ全てのものを, 容易に理解できる。 様々な, 話されたものや書かれたものから得た情報をまとめ, 論点や根拠も一貫した方法で再構築できる。自然かつ流暢, また正確に自己表現ができ, 非常に入り組んだ状況においても, 意味の微妙な違いを区別して表現できる。
	C1	多岐にわたる, 高度な内容のかなり長い文章を理解でき, 含意を把握できる。 表現を探すことにそれほど苦勞することなく, 流暢かつ自然に自己表現ができる。社会上, 学問上, 職業上の目的に応じて, 柔軟かつ効果的に言葉を使うことができる。複雑なテーマについて, 明確かつよく構成された, 詳細な文章を作ることができる。 その際, 構成パターン, 接続表現, 結束表現の用法を習得していることがうかがえる。
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野に関する深い議論を含む, 話題が抽象的であっても具体的であっても, 複雑な文章の主旨を理解できる。お互いに無理なく, 母語話者と日常的なやりとりができる程度の流暢さと自然さをもってやりとりができる。 広範なテーマについて, 明快かつ詳細な文章を作成でき, さまざまな選択肢について, メリットとデメリットを挙げながら話題に関する考えを説明できる。
	B1	職場, 学校, レジャーの場において日常的に遭遇する身近な話題について, 明快で標準的な情報であれば主旨を理解できる。その言語が話されている地域を旅行している際に起こりそうなほとんどの状況に対処できる。 馴染みがあるか, 個人的に興味のある話題について, 単純な脈絡のある文章を作ることができる。経験や出来事, 夢, 希望, 野心を説明でき, 意見や計画に関する理由や説明を短く述べることができる。

基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な、直接的に関係する領域（例えば、個人や家族の情報、買い物、近所、仕事）に関する、よく使われる表現が理解できる。ごく身近な範囲において、単純かつ日常的な話題に関する情報を交換できる。自分の背景や周囲の状況や、差し迫って必要な領域の事柄について、簡単な言葉を使って説明できる。
	A1	具体的な欲求を満たすための日常表現やごく基本的なフレーズを理解し、使うことができる。自分や他人を紹介でき、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など、個人的な情報について、尋ねたり答えたりできる。

粕谷恭子・他（2016: 209）によると、中・高等学校の教員養成・教員コア・カリキュラム（試案）の中で英語担当教員の英語力は CEFR B2 レベルや、 実用英語技能試験（英検）の準 1 級レベル相当という基準が示されている。また、教育実習に行くための英語力として中学校では CEFR B1 レベルが、 高等学校では B2 レベルを満たすことが必要である。

参考：2011 年度の TOEFL スコアのアジアランキングとして上位国は英語を母国語・もしくは第 2 言語とする国々が並び、10 位に韓国、16 位に中国、そして日本は 27 位とアジアでもワースト 4 位となっている。

5.5. 第二言語習得研究を活かした英語学習法について (p. 68)

練習問題 1.

解答)

- (1) 文法能力 (grammatical competence) 音声・単語・文法の能力
- (2) 談話能力 (discourse competence) 1 文以上をつなげる能力
- (3) 社会言語学的能力 (sociolinguistic competence) 社会的に「適切」な言語を使う能力
- (4) 方略的能力 (strategic competence) 問題が起こった時に処理する能力

練習問題 2.

解答)

畑佐（2015: 152-153）によると、明示的知識と暗示的知識は脳の異なる領域に記憶されていると考えられている (Stadler & Frensch, 1989)。明示的知識は、話者の意識下にあり、意識的に記憶から引き出される知識で、暗示的知識は意識下になく、話者が母語を使うときに使用される高速で処理可能な知識である。この節で述べたように Krashen (1985) のインプット仮説は、明示的知識はモニターにしかならないので習得 (acquisition) には結びつかず、単なる学習 (learning) であり自然な言語習得は不可能であると捉えている。一方、Anderson (1985) の自動化理論は意識的に学んだ知識でも、車の運転のように繰り返し練習をしているとそのスキルは獲得できるという捉え方である。

現在の捉え方としてはインプット仮説と自動化理論の中間にある「弱いインターフェイス」の立場にあると考えられる。大関（2015: 37）によると、弱いインターフェイスの立場

とは、明示的知識は暗示的知識に変わることはないが、明示的知識を得ることは暗示的知識を助けると考える立場である。意味や形式がその助けとなると考えられている。生成文法の知識は母語話者の言語能力を明らかにしたもので、暗示的知識の働きを明示したものと考えられるから、今後はこの知識を第二言語習得理論に応用すれば、明示的知識でも単なるモニターとして働くだけにはならないのではないかと思われる。

練習問題 3.

解答)

ここでの解答は、白畑知彦（編著）、若林茂則・須田孝司（著）（2004: 26）を1つの解答として紹介する。ほかの教科書にあたって、別のケースも存在するかどうかは各自で調べてほしい。

教科書（*New Horizon*）の順番と習得順序（白畑）の比較

順番	教科書の順番	順位	習得順序
1	be 動詞（連結）	1	be 動詞（連結）
2	不定冠詞（a/an）	2	進行形（-ing）
3	定冠詞（the）	3	所有（'s）
4	複数（-s）	4	be 動詞（助動詞）
5	三人称単数現在（-s）	5	複数（-s）
6	所有（'s）	6	一般動詞（不規則過去）
7	be 動詞（助動詞）		不定冠詞（a/an）
	進行形（-ing）	8	三人称単数現在（-s）
9	一般動詞（規則過去）	9	一般動詞（規則過去）
10	一般動詞（不規則過去）	10	定冠詞（the）

第6章 統語論

6.1. 文の生成過程とは (p. 77)

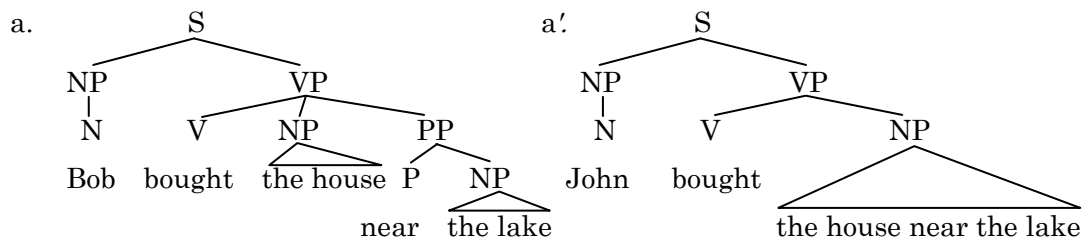
練習問題 1.

解答)

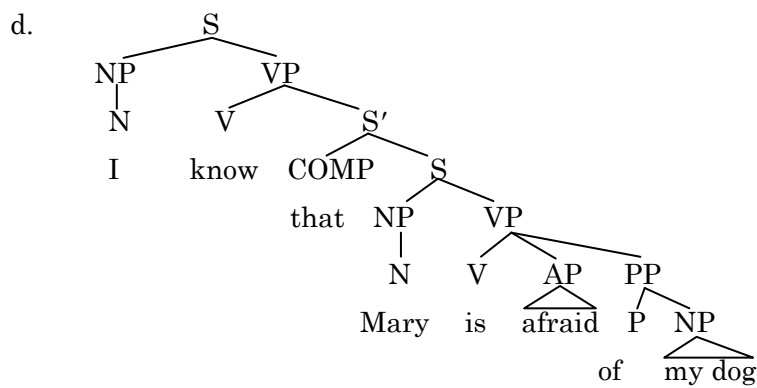
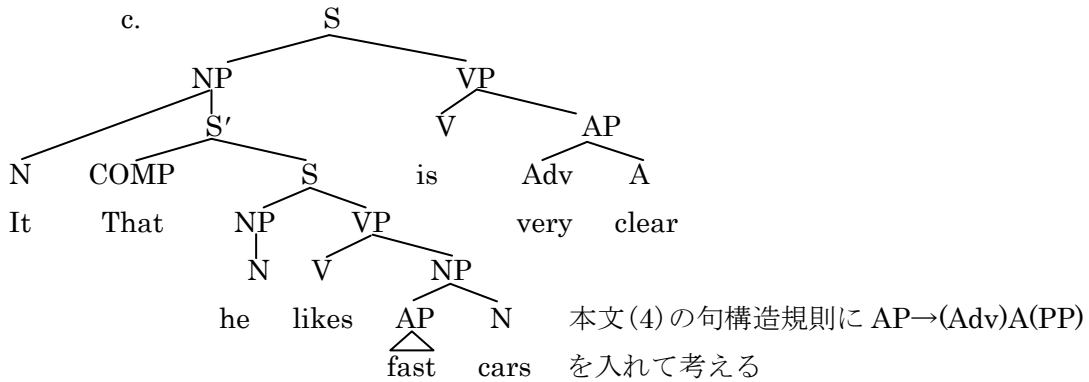
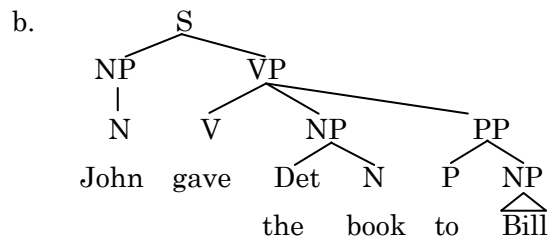
英語の語順は基本的に動詞の後部要素として短いものから長いものに順序づけられる。語の情報構造の面からも文末に行くほど新情報がくるので情報量と長さが関係してくる。動詞の後続の語順が NP > PP > Clause の語順になるのは書き換え規則を考慮に入れると明らかである。PP の中に NP が義務的に現れ、Clause (S) の中に PP が現れるからである。

練習問題 2.

解答)

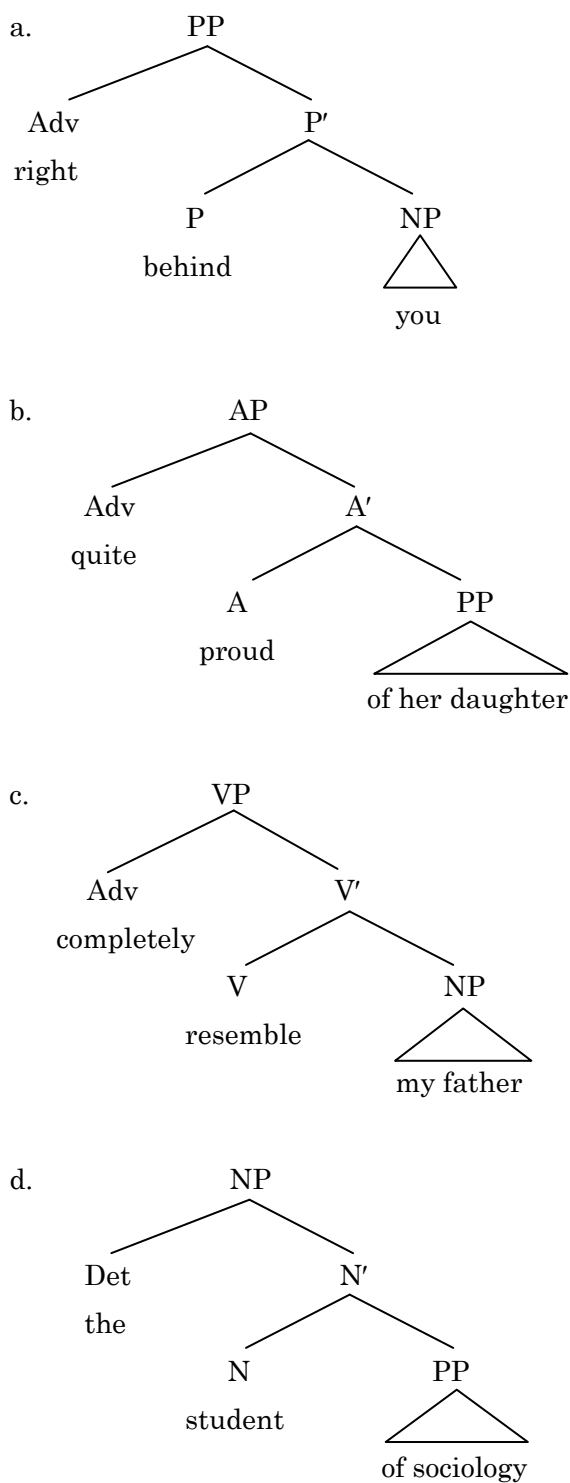


(a)は「ボブは湖の近くに家を買った」の、(a')は「ボブは湖の近くの家を買った」の樹形図を示す。



練習問題 3.

解答)

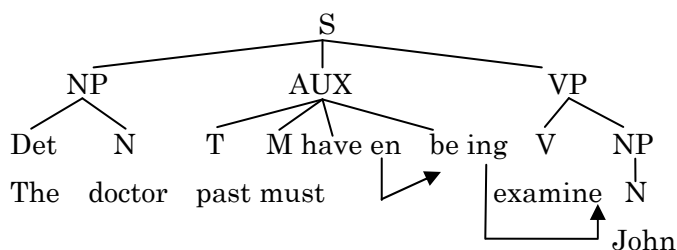


6.2. 助動詞の構造 (pp. 81-82)

練習問題 1.

解答)

法助動詞 (must), 完了相 (have), 進行相 (be) となる。文全体を樹形図で表すと以下
のようになり、矢印の方向に EN/ING Hopping が適用されて文が生成される。



練習問題 2.

解答)

John had a lunch at 12:00 → John didn't have a lunch at 12:00. (助動詞は did)

Did John have a lunch at 12:00? (助動詞は did)

John has a big car. → John hasn't a big car. (イギリス英語, 助動詞は has)

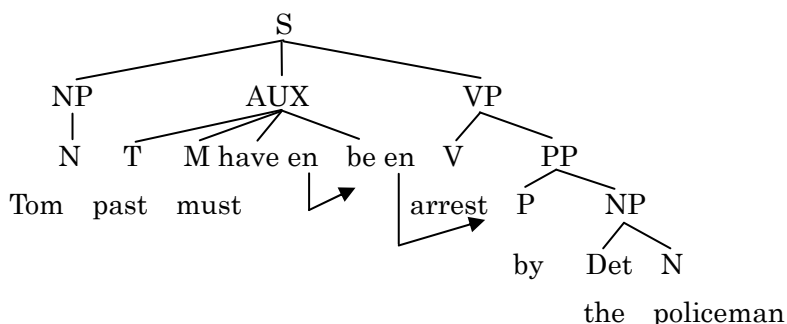
Has John a big car? (イギリス英語, 助動詞は has)

John doesn't have a big car. (アメリカ英語, 助動詞は does)

Does John have a big car? (アメリカ英語, 助動詞は does)

練習問題 3.

解答)



矢印の方向に EN/ING Hopping が適用されて文が生成される。

arrest+en は arresten ではなくて arrested になる。

en は過去分詞形の代表を表す。

6.3. 助動詞縮約 (p. 85)

練習問題 1.

解答)

(a)は時制縮約の例で, (b)は Not 縮約の例である。Bresnan (1971)によると(a)の時制縮約は proclitic (後接語) となるので 's のあとに要素が必要となる。したがって, (a)のように動詞句削除規則が適用されると deletion site (ϕ) を残すことになり(a)の時制縮約が阻止される。一方, isn't は not 縮約が enclitic (前接語) となるので is に not が前接し, isn't の Not 縮約が適用される。

練習問題 2.

解答)

(a)は「彼らは 10 歳になる前に麻疹にかかった」の意味をもつ文である。ここで, had

は catch や get の本動詞の意味になることがわかる。したがって、助動詞の had ではないので AR が生じない。(b) は are の時制縮約と not の Not 縮約が同時に生じている例である。練習問題の 1 で述べたように時制縮約は後接語となり 're not の縮約されない not が要求される。一方、Not 縮約は前接語なので aren't のような縮約されない are が要求される。したがって、'ren't はそのどちらの要請も満たさないので AR が阻止される。

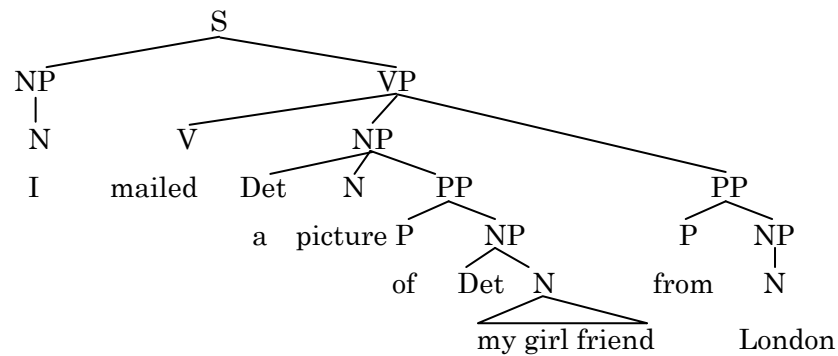
6.4. Wh 移動と痕跡 (p. 89)

練習問題 1.

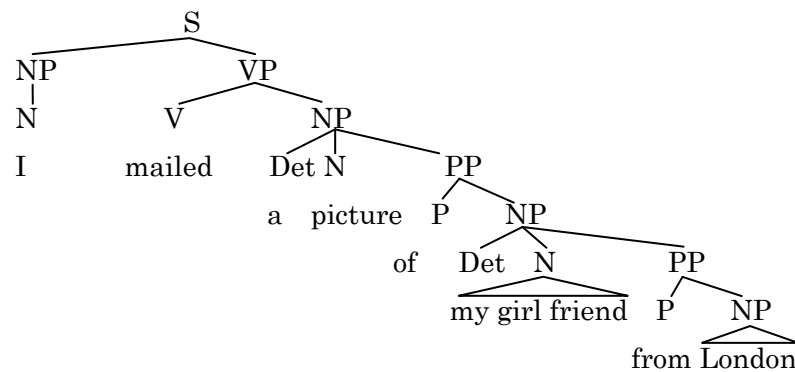
解答)

「私はロンドンから私のガールフレンドの写真をメールで送った」の意味と、「私はロンドン出身の私のガールフレンドの写真をメールで送った」の 2 つの解釈が可能で曖昧である。重名詞句移動を行うと前者の解釈しかできなくなり、曖昧性が消える働きをする。

(前者の解釈の樹形図)



(後者の解釈の樹形図)



練習問題 2.

解答)

(a) は複合名詞句制約に、(b) は等位構造制約に、(c) (d) は文主語制約に抵触する。(c) の主語は For me to understand something would be difficult の下線部で文主語を示し、understand の目的語の something を what に wh 化し、文主語の中から文頭に wh 移動できないということを示す。同様に、(d) の主語は Your interest in something surprised Tom の下線部で文主語を示し、in の目的語の something を what に wh 化し、文主語の中から文頭に wh 移動できないということを示す。

6.5. 代名詞解釈と言語直観 (p. 94)

練習問題 1.

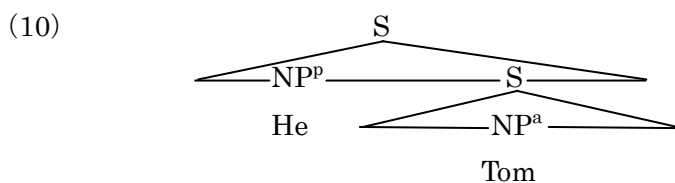
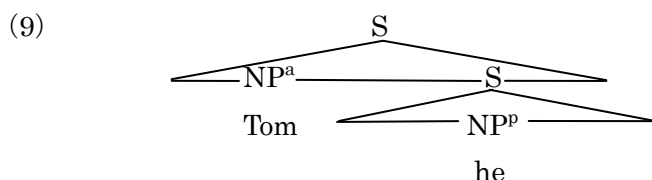
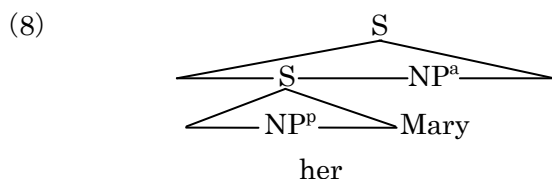
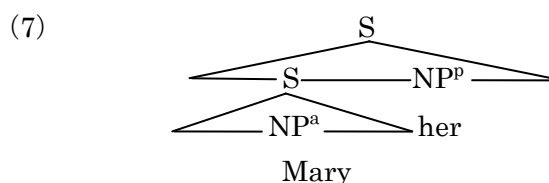
解答)

(a) (b) の各文は先行詞と代名詞が同一人物である (coreferential) という前提に立てば, 等位構造 (A and B) における先行詞が代名詞に先行する場合は同一指示関係が成り立つが, その逆は成立しないことを示す。

練習問題 2.

解答)

- a. Tom が he より「先行」し, 且つ he を「統御」する。(9)の構造となる。
- b. He が Tom より「先行」し, 且つ Tom を「統御」する。(10)の構造となる。
- c. Mary が her より「先行」するが, her を「統御」しない。(7)の構造となる。
- d. her が Mary より「先行」するが, Mary を「統御」しない。(8)の構造となる。



文法的で適格な文(a)は本文(6)の「先行」と「統御」の2つの条件を満たしている。一方, 不適格な文(b)は本文(6)の「先行」と「統御」の2つの条件を満たしていない。(c)と(d)の文は(a)の文より容認性は落ちるが本文(6)の「先行」と「統御」のいずれかの条件を満たしているので her は Mary を指す解釈が可能となる。

第7章 意味論

7.1. 「中身」と「入れ物」の文法 (pp. 98-99)

練習問題 1.

解答)

- a. 彼らはワゴン (一部) に新聞／干し草 (一部) を載せた。
- b. 彼らはワゴン (全体) に新聞／干し草 (一部) でいっぱい詰め込んだ。
- c. 彼らはワゴン (一部) に新聞／干し草 (全部) を載せた。
- d. 彼らはワゴン (全体) に新聞／干し草 (全部) でいっぱい詰め込んだ。
- e. 彼らはパン (一部) にゼリー (一部) を塗った。
- f. 彼らはパン (全体) にゼリー (全部) で塗り広げた。

練習問題 2.

解答)

- a. pour (そそぐ, 移す) は移動のプロセスを表すので, 中身句構文と折り合いが良いので a cup の目的語をとる入れ物句構文は不適格となる (cf. He poured tea into a cup.).
- b. cover (覆う, 包む) は結果状態を表す動詞なので入れ物句構文と折り合いが良いので a blanket の目的語をとる中身句構文は不適格となる (cf. She covered the baby with a blanket.).
- c. ジョンはワゴン (全体) に干し草 (全部) でいっぱい詰め込んだが, 彼は地面に大部分の干し草を残した。(前半部で干し草 (全部) を載せているのに後半部で大部分の干し草が残されるのは矛盾するので不自然となる)
- d. ジョンはワゴン (一部) に干し草 (全部) を載せたが, 彼は地面に大部分の干し草を残した。(前半部で干し草 (全部) を載せているのに後半部で大部分の干し草が残されるのは矛盾するから)
- e. その男たちはワゴン (全体) に何かを載せたが, ワゴンはいっぱいではなかった。(前半部の入れ物句構文のワゴンの内容と後半部の内容が矛盾するから)

練習問題 3.

解答)

- e! その男たちは平底荷船 (barge) (一部) にワゴン (一部) を載せたが, その平底荷船がいっぱいになったときたくさんのワゴンが埠頭に残された。(前半部の中身句構文の内容と後半部の内容が矛盾しないので容認される)

7.2. 「スル」と「ナル」の文法 (pp. 103-104)

練習問題 1.

解答)

- a. 彼らは川で泳いだ。「+スル」「-ナル」
- b. 彼らは泳いで向こう岸に渡った。「+スル」「+ナル」
- c. 彼らは駅に到着した。「-スル」「+ナル」

- d. 彼らは1時間で壁にペンキを塗り終えた。「+スル」「+ナル」
彼らは1時間、壁にペンキを塗った。「+スル」「-ナル」

練習問題 2.

解答)

- a. 「トムは金属をハンマーで叩いて平らにした」(「+スル」「+ナル」)と言っているのに、**for one hour**が続くと「1時間、金属をハンマーで叩いた」(「+スル」「-ナル」)の行為だけで「平らにした」の結果の意味を含意しなくなり不自然となる。一方、**in one hour**を置くと「トムは金属を1時間で、ハンマーで叩き平らにした」(「+スル」「+ナル」)となり、正しくなる。
- b. 「*トムは3分で机を押した」(「+スル」「-ナル」)と言えないのは、**push**が働きかけ動詞で結果(「+ナル」)まで含意しない理由で**in three minutes**の「+ナル」特性と折りが悪くなるからである。一方、**for three minutes**は「トムは3分間、机を押した」となり、「-ナル」の継続の意味と一致し、正しくなる。
- c. **push out**(押し出す)にすると「+ナル」になるので(b)とは逆に**in three minutes**は使える。「*3分間、トムは机を押し出した」とすると、**for three minutes**(「+スル」「-ナル」)と**push out**の「+スル」「+ナル」の特性が矛盾することになり不自然になる。

練習問題 3.

解答) 問題文は、「適格性の違いをアスペクトで考えなさい」と訂正いたします。

- a. **be asleep**は「眠っている状態」のアスペクトをもち、「-スル」「-ナル」の状態動詞句を形成する。「*ジョンは2時間で眠っている状態だった」と言えないのは、**in two hours**の前置詞句が完了の「+ナル」のアスペクトをもっており、「-ナル」の**be asleep**と折りが悪くなるからである。**for two hours**は「-ナル」なので正しくなる。
- b. **treat**は「治療する」の意味はあるが「治る」の完了アスペクトの「+ナル」の意味をもっていない。したがって、「*医者は2時間で患者を治療した」と言えず、「医者は2時間、患者を治療した」と言える。前者は**in two hours**の「+ナル」特性と**treat**の「-ナル」特性の矛盾で、後者のように**for two hours**の「-ナル」特性の場合は矛盾せず正しくなる。
- c. **cure**は「治療して治す」(「+ナル」)の完了アスペクトの意味がある。したがって、**in three minutes**(「+ナル」)を続けて「医者はその患者を2時間で(治療して)治した」と言える。しかし「*医者はその患者を2時間、(治療して)治した」とは言えない。前者は**in two hours**と**cure**の動詞が「+ナル」の特性で一致しているのに対して、後者は**for two hours**の「-ナル」と**cure**の動詞「+ナル」が一致しないので不自然になる。

7.3. アスペクトと進行形 (pp. 107-108)

練習問題 1.

解答)

- a. **is standing**は一時的な状態であるのに対し、**forever**が永久的の意味の矛盾がある。
- b. **love**は「愛する」の状態動詞で進行形にできない。「肉体的に愛する」場合は使える。

- c. **The bus is stopping in front of the bus station.**の意味はネイティブによると、バスがバス停を思わず通り過ぎるようになり、急ブレーキを踏んで停まろうとしている状況であると説明を受けた。一般的には、**The bus is stopping at the bus station.**「バスがバス停に近づき停まろうとしている」と表現するので、前者の文が不自然となる。ちなみに、バスがバス停で停止している状態は **The bus is waiting at the bus stop.** と言い、エンジンはかかっている状態である。

練習問題 2.

解答)

この解答は 7.4 節の中で述べられる。(a) (b)の「ある」「いる」は状態動詞で(a)「*机の上に本があっている」や(b)「*池に魚がいている」とは言えない。状態動詞がすべて「ている」ととらないと考えるよりも (cf.「机の上に本が置いてある」「池に魚が浮いている」), 「居る」「有る」自体が「ている」の意味を内包していると捉える。

7.4. 時制と現在完了形と過去形の関係 (p. 112)

練習問題 1.

解答)

- 一時的行為・動作
- 一時的状態
- 習慣
- 経験
- 永続的状态 (建設中の意味もある)

練習問題 2.

解答)

- 今までにオーストラリアに行った経験がありますか。(経験)
- 私は子供のときからずっと今までこれをしてきた。(継続)
- トムは一年間、今までにロンドンに行ったことがある。(経験)
トムは現在まで一年間、ロンドンに暮らしている。(継続)
- 私はちょうど今、宿題をし終えたところだ。(完了)

7.5. 自動詞と他動詞の違いは何 (p. 116)

練習問題 1.

解答)

- 「?私は電車によって近づかれた」(「電車」は主語の「私」に対して何ら影響を与えないので英語も日本語も不自然となる)
- 「私は見知らぬ人によって近づかれた」(「見知らぬ人」が近づいてくると主語の「私」は心理的に影響を受けるので英語も日本語も自然となる)

練習問題 2.

解答)

(a)は「そのショックから立ち直るのにしばらく時間がかかった」の意味。over は前置詞で、It took me some time to get the shock over.と the shock を get と over の間に入れると副詞になり、「そのショックを理解させるのにしばらく時間がかかった」の意味が出てくる。the shock を代名詞の it に置き換えれば、(a)の元の意味の「そのショックから立ち直るのにしばらく時間がかかった」を表すには It took me some time to get over it.としなければならない。

(b)は「宿題を片付けてしまおう」の意味で、over は副詞となる。逆に、(b)で Let's get over with it.とすると「それ(=宿題)を片付けましょう」の意味は無く、「それ(e.g. 困難)を乗り越えましょう」の意味になる。

練習問題 3.

解答)

- a. 「ロープが切れた」と日本語では言うが、*The rope cut と言わない。(a)の cut の意味は「(鋭利な刃物で)切る」で切り方(手段)に重点が置かれる。結果よりも途中のプロセスに意味が置かれる点が日本語と異なり、働きかけ動詞のタイプに属する。したがって、自他交替が不可能となる。対象に変化をもたらす結果を含意する日本語の「切る」は状態変化動詞なので自他交替が可能となる。
- b. 「障子が破れた」と言うが「校則が破れた」とは言わない。同様に、英語でも The screen broke と言うが、*The school regulation broke と言わない。(b)の break は基本的には状態変化動詞であるが、主語の自発性があるかないかが自他交替に影響する。すなわち、「障子」は自然に破れる可能性が含意され自発性があり、自動詞表現の「障子が破れた」が可能となり、一方「校則」は人間が破るもので自然に破れない。したがって、主語の自発性がないので自動詞表現の「校則が破れた」とは言えない。同じことが英語の表現についても言える。
- c. *the knocked door と言えないのは knock が働きかけ動詞であり、過去分詞形に完了形容詞の意味が出て来ないことに起因する。the door knocked on by someone は「誰かによってノックされたドア」で knock が行為の意味をもつので可能な表現となる。

7.6. 「押した」と「押し出した」の違いは何 (pp. 120-121)

練習問題 1.

解答)

- a. 「トムは1時間で部屋を綺麗にした」(部屋は綺麗になっている)完了の読み。
- b. 「トムは1時間の間、部屋を綺麗にした」(部屋は片付いていない)未完の読み。

Tom cleared the room の clear を clear up と句動詞にすると in an hour を付けなくても完了を表す。その場合は、the room が代名詞の it に換えられると Tom cleared it up と義務的に動詞(cleared)と副詞(up)の間に置かれる。cf. *Tom cleared up it. (7.5節の練習問題2の解答を参照のこと)

練習問題 2.

解答)

(a)は **took in** を「中に入れる」の句動詞と見なすと「?トムは3分でその箱に1つのボールを中に入れた」となり、スローモーションで行わない限り、意味的に不自然な行為をすることになる。また、「*箱の中のボールを1つ取った」は複合動詞の V_1V_2 の V_1 の意味しがなく、**in three minutes** の完了を表す前置詞とは共起しない。正しくは、**Tom took a ball in the box out in three minutes** と **took out** の「取り出した」とし、 V_2 の副詞 (**out**) を付加して完了を表す句動詞にする。

(b)の元の文は **Tom ran up the steep hill** で「トムはその急な坂を駆け上った」の意味をもつ。**the steep hill** を代名詞の **it** に換えると句動詞のように動詞と副詞の間に **it** が置けない。なぜなら、**up the steep hill** で前置詞句を形成し、前置詞のあとは名詞が必ず必要なので代名詞の **it** になっても **up it** のままになる (i.e. **Tom ran up it**)。第6章 統語論の6.1節で見たように、 $PP \rightarrow P + NP$ の書き換え規則からも **P** (前置詞) のあとには義務的な名詞句補部 (**NP complement**) が要求されるので前置詞のあとに(代)名詞が必ず来る (5.2節の練習問題1の解答を参照のこと)。

練習問題 3.

解答)

- a. **dance** は活動動詞なので完了形容詞にならない。したがって、***a danced girl** とは言えない。「昨日、踊った少女」は **a girl who danced yesterday** と言い、「行為」を表し「踊り終えた」の意味は無い。
- b. 「?閉めた窓」が不自然に感じるのは「行為」を表し、「完了」を表さない。「閉め切った窓」と複合動詞にすると結果状態を表し、正しくなる。「閉まった窓」とすると結果状態を表し、正しくなる。
- c. **appear** は自動詞などで、**-able** の他動詞を範疇選択する下位範疇化素性に違反する。また、**appear** は非対格動詞で、主語 (外項) がないのでスル型行為はできない。

第8章 音韻論

8.1. シラブルとモーラ (p. 125)

練習問題 1.

解答)

a. **lem · on** /lémən/ b. **mel · on** /mélən/ c. **chim · pan · zee** /tʃɪmpænzi:/

d. **hip · po · pot · a · mus** /hipəpátəməs/

頭子音: a. l b. m c. tʃ, p, z d. h, p, p, m

頂点: a. é, ə b. é, ə c. i, æ, í: d. i, ə, á, ə

尾子音: a. m, n b. l, n c. m, n d. t, s

練習問題 2.

解答)

a. spo(on) + (fo)rk = spork

b. sp(oon) + (f)ork = spork

日本語の母国語話者は(a)の組み合わせを考え、英語の母国語話者は(b)の組み合わせを考える。すなわち、英語の母国語話者は(b)のように音節核 (o) と尾子音 (rk) を結合させ、ライムを形成させる傾向があり、日本語の母国語話者は頭子音 (sp) の (p) と音節核 (o) を結合させ、モーラを形成させる傾向がある。

練習問題 3.

解答) カ (人) + メハメハ (寂しい) (「寂しい人」の意味) となる。

8.2. 連濁の不思議 (pp. 128-129)

練習問題 1.

解答)

a. 規則 2

b. 「目標達成と新聞配達」は規則 5 に従う。「物書き」「人相書き」は職業 (人) となるので連濁は生じない。cf. 「人相書 (にんそうがき)」

c. 「胃カメラ」は規則 3 に基づく。「魚釣り」は規則 5。「磯釣り」が連濁するのは前部要素が副詞「磯で釣りをすること」になり連濁する。

練習問題 2.

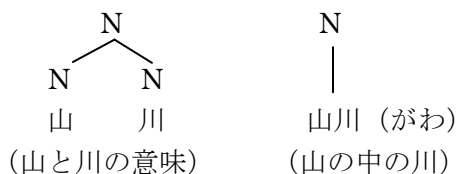
解答)

a. 塗箸箱「ぬりばしばこ」はヒントの左側の構造で、「漆塗りの箸が入った箱」の意味。一方、「ぬりはしばこ」はヒントの右側の構造で「漆塗りの箱に箸が入ったもの (箸が漆塗りがどうかはわからない)」。

b. 偽狸汁「にせだぬきじる (しる)」は「偽狸の汁」の意味で、左側の構造を示し、狸がニセモノとなる。一方、「にせたぬきじる」は「偽の狸汁」の意味で、右側の構造を示し、汁がニセモノとなる。

練習問題 3.

解答)



8.3. オノマトペとサ変動詞「する」の関係 (p. 133)

練習問題 1.

解答)

- a. がー (CVV) (1 音節の母音が調音化されたオノマトペ。ほかに「キヤー」「ザー」など。)
- b. きゃつきゃつ (CVQ-CVQ) (1 音節に促音が付いた形の反復形。ほかに「くっくっ」。)
- c. ばんばん (CVN-CVN) (1 音節に撥音が付いた形の反復形。ほかに「わんわん」。)
- d. ばたり (CVCVr) (「ばたっ」と同じように 2 音節で CVCV の構造に促音がついたか ri が付いたかの違いがあるが、「ばたり」は「ばたっ」よりいくぶん文語的であり、「ばたり」から「ばたっ」が派生されたと考えられる。)

練習問題 2.

解答)

- a. gaba (CVCV) 2 音節
- b. gurari (CVCVri) 2 音節＋り
- c. ga·n (CVVN) 1 音節＋長音＋撥音
- d. kankan (CVNCVN) 1 音節＋撥音の反復形

練習問題 3.

解答)

(a) (b) (c)ともに「進行」を表す。ただし、(b)の視点は「くずす」という動作そのものに注目を集めているのに対し、(c)は動作の結果、「積み木の山がどうなるか」に注意を払ってくずしている。

8.4. 語彙音韻論の問題 (p. 138)

練習問題 1.

解答)

- a. admit の派生名詞形は admission /ədmiʃən/となり、-tion が -ssion と調整されている。
- b. describe の派生名詞形は description /diskrípʃən/となり、-tion が -ption と調整されている。
- c. divide の派生名詞形は division /dəvɪʒən/となり、-tion が -sion と調整される。

練習問題 2.

解答)

- a. variety (various から -ity を付加するときに -ous の切り取りや音の変化 (-ety) が生じる。したがって、-ity はレベル 1 の接尾辞。「変形, 種類, バラエティ」の意味)
variousness (various から -ness を付加するときに強勢移動を生じさせない。したがって、-ness はレベル 2 の接尾辞。「多様性, 変化」の意味)
- b. immoral は in- が im と同化するのでレベル 1 の接頭辞で「道徳に反する, わいせつな」の意味。immoral と in- に強勢移動した発音も可能。
unmoral は un- が同化しないのでレベル 2 の接頭辞で「道徳に関係ない」の意味。

練習問題 3.

解答)

a. *cómparab*[1]-*ly*[2], **compárab*[2]-*ly*[2]

compáre に *-able* が付加すると強勢移動が生じているので、*-able* はレベル 1 となる。

一方、*compárable* は *compáre* から *-able* 付加の際に強勢移動が生じていないのでレベル 2 となる。レベル順序づけ仮説では **compárab*[2]-*ly*[2] の派生を説明できない。高橋 (2009: 182) は ACC (形容詞範疇条件) によって両者の派生語の違いを説明している。

b. *cultivab*[1]-*ly*[2], **cultivatab*[2]-*ly*[2]

cultivate に *-able* が付加する際に、*-ate* の切り取りが生じて *cultivable* となるので *-able* はレベル 1 となる。一方、*cultivable* は *-ate* の切り取りが生じていないので *-able* はレベル 2 となる。レベル順序づけ仮説では、**cultivatab*[2]-*ly*[2] の派生を説明できない。高橋 (2009: 182) は ACC (形容詞範疇条件) によって両者の派生語の違いを説明している。

第 9 章 語用論

9.1. 英語ではとうとう試験に落ちたと言えないのはなぜ (pp. 142-143)

練習問題 1.

解答)

- a. The envelope was found at last behind the dining room clock.
- b. At first, the whole country did not take us seriously.

練習問題 2.

解答)

- a. At first 「最初は万事がうまく行ったが、次第に事態は変化した」
- b. first(ly) 「最初に申し上げますが、本日あなたにお会いできて嬉しいです」
- c. first(ly) 「地震が起こったら、最初にガスの元栓を切りなさい」

9.2. 「行き来する」が *come and go* となるのはなぜ (p. 147)

練習問題 1.

解答)

(a) の文では、*Tom's wife* は所有格の *Tom* に視点があり、 $E(\text{Tom}) > E(\text{Tom's wife})$ となる。*Tom's wife* は受動態の主語なので $E(\text{Tom's wife}) > E(\text{Tom})$ となる。併せて視点関係を踏まえると、 $E(\text{Tom}) > E(\text{Tom's wife}) > E(\text{Tom})$ となるので、視点に矛盾が生じ不自然な文となる。

(b) の文では、*Mike's brother* (=John) は所有格の *Mike* に視点があり、 $E(\text{Mike}) > E(\text{John})$ となる。一方、*his brother* (=John's brother: Mike) は所有格の *John* に視点があり、 $E(\text{John}) > E(\text{Mike})$ となる。併せて視点関係を踏まえると、 $E(\text{Mike}) > E(\text{John}) > E(\text{Mike})$ となるので、視点に矛盾が生じ不自然な文となる。

(c) の文では、発話当事者の視点ハイアラーキーから $E(\text{自称}) > E(\text{対称})$ となり、 $E(\text{me}) > E(\text{you})$ となる。しかし、*go up to* の視点ハイアラーキーは *to* 前置詞の目的語より主語

にあるので E (you) > E (me) となる。併せて視点関係を踏まえると、E (me) > E (you) > E (me) となるので、矛盾が生じ不自然な文となる (cf. I went up to you yesterday and told you that I had been to London.)。

練習問題 2.

解答)

(a) の文では、「太郎の妹」は所有格の「太郎」に視点があり、E (太郎) > E (太郎の妹) となる。動詞「くれる」は主語よりも与格目的語に視点があるので、E (太郎の妹) > E (太郎) となる。併せて視点関係を踏まえると、E (太郎) > E (太郎の妹) > E (太郎) となるので、視点に矛盾が生じ不自然な文となる。

(b) の文では、発話当事者の視点ハイアラーキーは E (僕) > E (父) となる。動詞「送る」は与格目的語よりも主語に視点があるので、E (父) > E (僕) となる。併せて視点関係を踏まえると、E (僕) > E (父) > E (僕) となるので、視点に矛盾が生じ不自然な文となる。

(c) の文では、発話当事者の視点ハイアラーキーは E (僕) > E (母) となる。動詞「寄こす」は主語よりも与格目的語に視点があるので、E (母) > E (僕) となる。併せて視点関係を踏まえると、E (僕) > E (母) > E (僕) となるので、視点に矛盾が生じ不自然な文となる。

高見 (1997) では、「視点の一貫性：単一の文は、共感度関係に論理的矛盾を含んでいてはならない」という原則の下で視点ハイアラーキーが提案されている。

練習問題 3.

解答)

- a. I'll bring the letter to your office.
- b. I'll take the letter to Mary.
- c. I'll take the letter to the mail box.
- c'. *I'll take the mail box the letter. (cf. I'll take Mary the letter.)

bring と take の関係は come と go の関係に似ている。bring は話し手や聞き手のところに「持って行く」の意味で、take は話し手・聞き手以外の第三者のところに「持って行く」の意味となる。(c') の英語が不自然なのは take のあとの the mail box (郵便ポスト) が the letter の受領者 (recipient) になれないからであり、一方 Mary は the letter を受け取る受領者になれるので二重目的語構文をとれる。この辺りの事情については影山太郎編 (2001) 『日英対照 動詞の意味と構文』の第 5 章を参照のこと。

9.3. 情報のなわばり理論について (pp. 151-152)

練習問題 1.

解答)

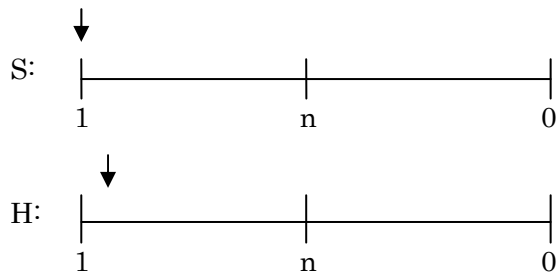
- a. 私は、お腹が痛い。(話し手 (内), 聞き手 (外) の A の可能性)
- b. 君は英語がずいぶん達者だね。(話し手 (内), 聞き手 (内) の B の可能性)
- c. 君は退屈そうだね。(話し手 (外), 聞き手 (内) の C の可能性)
- d. 私は参加できません(ね)。(話し手 (内), 聞き手 (外) の A の可能性で (ね) は任意的)

で、Bの可能詞の場合は（ね）は不可欠で義務的要素となる）

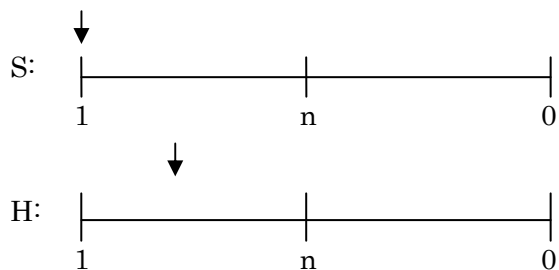
練習問題 2.

解答)

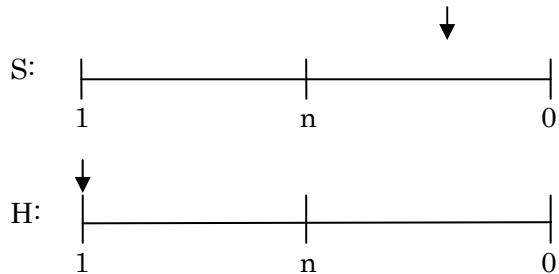
a. ネコがえさを食べているね。(1=H>S>n) 直接ね形



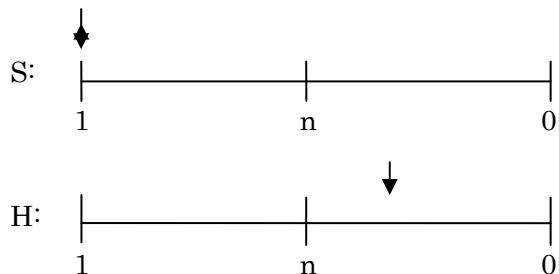
b. 田中さんは来ないだろう。(I=S>H>n) だろう形



c. ロンドンの冬は寒いらしいね。(I=H>S<n) 間接ね形



d. このお皿はキズがあるみたい。(I=S>H<n)



9.4. 発話行為 (pp. 155-156)

練習問題 1.

解答)

a. 警告 (warning) 「あなたの髪の中に蜘蛛がいる」

- b. 非難 (accusing) 「誰かがアイスクリームを全部食べてしまった」
- c. 脅迫・威嚇 (threatening) 「銃をもっているぞ」
- d. 侮辱 (insulting) 「お前は馬鹿だ」
- e. 要請 (requesting) 「塩を取って」

練習問題 2.

解答)

山梨 (1986: 151) は「会話の公理」として Grice (1975) の「会話の格率」を以下のよう
に解説している。

a. 量の格率 (the maxim of quantity)

- (1) 必要な情報はすべて提供する。
- (2) 必要以上の情報の提供はさける。

b. 質の格率 (the maxim of quality)

- (1) 偽だと考えられることは言わない。
- (2) 十分な根拠を欠くことは言わない。

c. 関係の格率 (the maxim of relation)

- (1) 無関係なことは言わない。

d. 様態の格率 (the maxim of manner)

- (1) わかりにくい表現はさける。
- (2) 曖昧な表現はさける。
- (3) できるだけ簡潔に表現する。
- (4) 秩序立った表現をする。

具体的な「会話の格率」に違反するシナリオとして、高橋・福田 (2001: 175) の例を挙げておく。

Peter: Please call me a taxi. (タクシーを呼んでください)

Mary: Coffee would make me awake. (コーヒーを飲むと目がさえてしまうわ)

解説：メアリーの応答文は、自分が考えていることを偽りなく、明確に述べている。「質の格率」と「様態の確立」に従った発話である。しかし、タクシーを呼んでほしいというピーターの要求に対して、それに見合うだけの情報を提供しておらず、無関係なことを述べている。したがって、「量の格率」と「関係の確立」に違反することになり、結果として不自然な会話となる。

第 10 章 英語教育と英語学習

10.1. 英語教育に必要な構造の理解 (p. 163)

練習問題 1.

解答)

発音記号を見て正しく発音したあとに有声音と無声音の音を確認しなさい。

練習問題 2.

解答)

- a. As a result of being seriously ill, I became deaf.
- b. The game was canceled because it rained heavily yesterday.
The game was canceled because of heavy rain yesterday.
- c. In case that there is an earthquake, turn off the gas at the main.
In case of an earthquake, turn off the gas at the main.

練習問題 3.

解答)

日本語訳：その発見は／古代女戦士の物語に真実がある可能性を示唆するけれども，明らかに／これらの遺体は／古代ギリシア神話のアマゾン族のものではなかった。

10.2. 単文, 重文, 複文の理解 (p. 170)

練習問題 1.

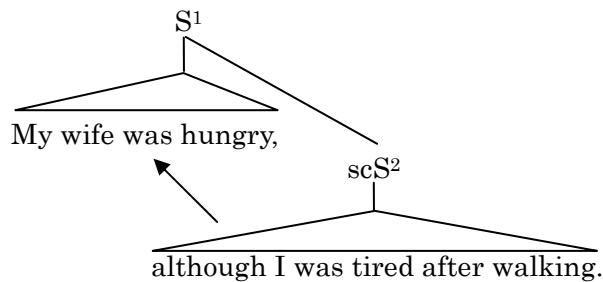
解答)

- a. They are hoping to finish as early as tomorrow. (単文)
- b. We took shelter under the nearby building when it began to rain. (複文) 下線部は従位接続詞
- c. He is very young but a quick learner. (重文) 下線部は等位接続詞

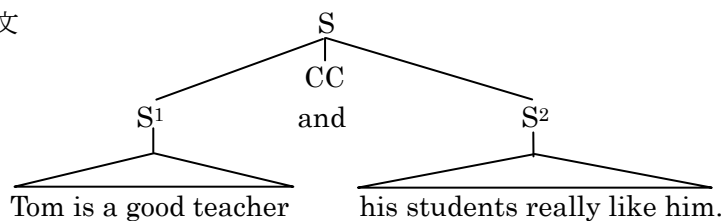
練習問題 2.

解答)

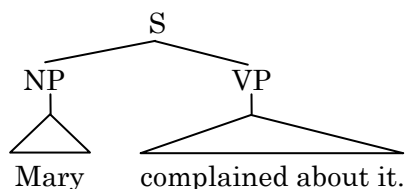
a. 複文



b. 重文



c. 単文



10.3. 中学校における be 動詞の教え方 (p. 174)

練習問題 1.

解答)

- a. So far I have been talking about mirror images where we have the exact reverse where we have just two things.
- b. Look for the subject at the beginning of the sentence if it is there, then go to the end of the sentence and translate from the end to the beginning.
- c. It is interesting that when you teach English, you do not have to teach word order for this kind of sentence.
- d. This means that there is something about human nature or the human mind that makes mirror images work quite well.

練習問題 2.

解答)

- a. あなたの家で昨日何があったの。
- b. 誰がその雑誌を取りにここに来たの。

文頭の位置であるが, **what** や **who** は聞き手にとって新情報となる情報を含んでいるので旧情報の「は」ではなく「が」が使われる。

10.4. be 動詞理解のための主語 NP と助動詞における生成文法の応用 (pp. 177-178)

練習問題 1.

解答)

- a. The student who went to the job interview yesterday will pass the exam.
The student who went to the job interview yesterday would pass the exam.
(4c) のテストより下線部が主語 NP であることがわかる。
- b. What Tom said has been denied in the meeting.
Has what Tom said been denied in the meeting?
(4a) のテストより下線部が主語 NP であることがわかる。
- c. That the earth is round can be observed by the manmade satellite.
That the earth is round can not be observed by the manmade satellite.
(4b) のテストより下線部が主語 NP であることがわかる。

練習問題 2.

解答)

- a. メアリーが言ったことは私を悩ませてきた。(have は使役の意味)
Does what Mary said have me worried?
助動詞 主語 NP

- b. ジョンは来週、ハワイで素晴らしい休日を過ごすだろう。(have は spend の意味の本動詞)

Will John have a wonderful holiday in Hawaii next week?

助動詞 主語 NP

- c. ビルは今朝、美味しい朝食を食べた。(have は eat の意味の本動詞)

Did Bill have a nice breakfast this morning?

助動詞 主語 NP

- d. トムは豪華な車を持っている。(have は所有の意味をもつ助動詞 (イギリス英語) / 本動詞 (アメリカ英語))

Has Tom a luxurious car?

助動詞 主語 NP

Does Tom have a luxurious car?

助動詞 主語 NP

練習問題 3.

be 動詞の縮約は 6.3 節 (p. 82) で述べたように、be 動詞のあとの要素が移動や削除されると非文になる。したがって、They say he's a real bastard. の they say の挿入節が be 動詞の前に挿入される場合 (He, they say, 's a real bastard.) は正しく縮約が生じ、be 動詞のあとに挿入節が挿入される場合は (*He's, t they say, a real bastard.), 元にあった t の位置から a real bastard が移動されることになり、be 動詞の縮約が阻止され、非文となる。主語 NP を見つける方法としては be 縮約との関連で、be 動詞の左側の挿入節は空虚 (vacuously) に適用され、NP ホスト条件 (6.3 節の p. 83 の (4)) を満たすという条件を加える必要があるであろう (cf. What do you think's happening?). Bresnan (1971: 12) にはほかに次のような例が載せられている。

- (1) a. What I say, my dear, 's no business of yours.
b.* What I say's, my dear, no business of yours.
c. What I say is, my dear, no business of yours.
- (2) a. These things, I hope, 'll get cleared up soon.
b.* These things 'll, I hope, get cleared up soon.
c. These things will, I hope, get cleared up soon.